

第2回 横浜市保土ヶ谷スポーツセンター指定管理者選定委員会 会議録	
開催日時	平成27年8月11日(火) 14時00分～16時00分
開催場所	保土ヶ谷区役所4階 401会議室
出席者	〈委員〉 伊藤委員長、木村委員、小林委員、柳澤委員、山崎委員(以上5名) 〈事務局〉 名木課長、高橋(勝)係長、川崎、高橋(友)(以上4名)
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者:4名) ※議題3以後非公開
議 題	1 オリエンテーション 2 応募団体面接審査 (1) プレゼンテーション (2) 質疑応答 3 意見交換、評価シート記入 4 指定候補者の決定
議 事	<p>1 オリエンテーション 選定委員会の進め方、応募結果、評価・選定方法等について事務局より説明。</p> <p>2 応募団体面接審査 (1) プレゼンテーション 応募団体によるプレゼンテーションを約20分実施。 (2) 質疑応答 委員からの質疑と応募団体による応答を約20分実施。 主な質疑応答の内容は以下のとおり。</p> <hr/> <p>委 員: 目標利用者数40万人とのことだが、区民全体の健康を考えたときに、理想的な利用人数は想定しているか。 応募団体: 積算はしていない。目標利用者数にはリピーターが多い想定だが、運動していない人を開拓して来館してもらうための方策を提案したい。</p> <p>委 員: 現在、初音が丘地区センターと実施している提携事業は、区内の他施設にも順次広げていくのか。またその参加者も、目標利用者数40万人に組み入れているのか。 応募団体: 指定管理者連絡調整会議等で、初音が丘地区センターでの実施結果を示すなどして、今後は順次広げていきたい。参加者は40万人に含める。</p> <p>委 員: 瀬戸ヶ谷スポーツ会館は施設が小さく、うまく利用されていないので、何か良い提案をしてもらいたい。 応募団体: 検討していく。</p> <p>委 員: 保土ヶ谷区の人口構成を理解した多様な教室展開、ユニバーサルデザイン7原則、積極的に施設の外へ出向く姿勢は評価できる。今後、地域に開かれた施設にするには、研修室の活用が重要と考えるが、外部に会議や会合等でも利用してもらうための、具体的な周知策はどう考えているか。 応募団体: 学校やアワーズ等にチラシを配布し、PTAや区民活動団体への周知を進めていきたい。</p>

委員：紙媒体はなかなか読んでもらえない。チラシ配布だけでなく、直接区連会や各種団体の会合等に説明に出向いたほうがよい。

応募団体：検討していく。研修室の外の窓ガラス部分に広告を出し、研修室利用のPRをすることも考えている。

委員：財務諸表について。①財産目録において、高額の普通預金があるが、もっと利回りの良い資金運用は検討しないのか。②貸借対照表において、財政調整基金資産で潤沢な資金があるのに、なぜ神奈川スケートリンクの再整備で借入れをするのか。③正味財産増減計算書において、人件費よりも委託費がやや上回っているが、委託費の内容を知りたい。

応募団体：①即答できない。②財政調整基金資産は全て神奈川スケートリンク再整備に投入するため0円になる。③委託費は主にスポーツ教室等の人件費。多くの教室を開催しているため費用が多くなる。

委員：運動療法プログラム、予防改善プログラムはスポーツセンター内で実施するのか。

応募団体：トレーニング室、教室、また地域への派遣指導において、様々な要望に応じてアプローチしていく。

委員：このプログラムはスタートして何年か経っているのか。

応募団体：姿勢改善プログラムは3年ほど前にスタートし、保土ヶ谷スポーツセンター以外のスポーツセンターでも開催している。

委員：研修室の稼働率が低いので活用してはどうか。

応募団体：指定管理者が利用可能な優先利用枠が平日3分の1以下と決まっており、それ以外は一般への貸出となるが、1か月前になると予約がないコマ（空きコマ）が決まるので、それ利用して実施していきたい。

委員：商店街出張所は、具体的に出張先は考えているのか。

応募団体：決まっていない。横浜市の空き店舗活用チャレンジショップ事業の活用や、区商店街連合会の会長へのアプローチを考えている。

委員：出張所は常設なのか。

応募団体：常設である。

委員：危機管理体制について、体育協会本部からの応援を想定しているが、大災害の際は本部の支援は不可能ではないか。スポーツセンター内の人員による体制を構築し、もっと具体的な役割分担やケースの想定が必要。また、帰宅困難者の受け入れは考えていないのか。

応募団体：危機管理体制については検討する。また、災害時は遺体安置所として位置づけられているが、帰宅困難者受け入れとして区からの要請があれば対応する。

委員：夜9時～11時の利用者は多いのか。

応募団体：多い。第一体育室はフットサルのサークルの利用が多く、トレーニング室も30～40人は常に利用がある。

委員：「障がい者」の「がい」をひらがなで記述しているのが大変良い。いろいろな

	<p style="text-align: center;">方に来ていただきたいという姿勢が表れている。</p> <p>-----</p> <p>3 意見交換、評価シート記入</p> <p>(1) 応募団体の市税納付状況、暴力団経営支配法人等の該当の可否、現指定管理者の管理運営状況について事務局より説明。</p> <p>(2) 応募団体の財務状況について、柳澤委員より説明。特に大きな問題はなく、5年間は問題なく指定管理を行うことができると判断した。</p> <p>(3) 提案内容について委員による意見交換を実施。</p> <p style="padding-left: 2em;">＜主な意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営コンセプトが「人材こそが最も重要な経営資源」としていること、区の地域性を反映し幼児から高齢者までを対象とした多様な教室事業を展開していること、満足度調査や利用者会議開催など第三者の意見を積極的に聞いていること、多様な媒体による積極的な広報活動の展開、ユニバーサルデザイン7原則で誰に対しても同等で利用しやすいサービスを提供していく姿勢、積極的に外に出ていこうという姿勢が評価できる。 ・今後は、スポーツ利用だけではなく多目的利用も必要になってくるので、研修室をいかに活用していくかが重要。文化系教室等でスポーツに興味のない人もスポーツセンターを利用できる環境を整備するという姿勢は評価できる。 ・災害時の本部からの応援は期待できない可能性があるため、スポーツセンター内部での体制づくりが必要。 ・外国語対応について、何か国語対応可能なのか聞いたかった。 <p>4 指定候補者の決定</p> <p>各委員の評価点を集計した結果、委員5人の平均点が110点満点中90.6点となり、最低基準点(63点)も満たしているため、<u>公益財団法人横浜市体育協会を指定候補者として決定した。</u></p>
<p>講 評</p>	<p>区の特性を理解した事業展開、新たな運動療法・予防改善プログラムの導入、積極的に地域へ出向こうとする姿勢等、全体的に高く評価できる。</p> <p>危機管理体制については、特に大災害時には体育協会本部からの応援は期待できない可能性があるため、スポーツセンター内部での体制構築について再考する必要がある。また、研修室の新たな利用者獲得に向けた、直接的な広報活動についても検討する必要がある。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 横浜市保土ヶ谷スポーツセンター指定管理者選定委員会委員名簿 (2) 席次表 (3) 選定委員会の進め方等について (4) 応募団体提出書類 (5) 評価シート (6) 現指定管理者運営実績資料 (7) 財務状況説明資料 <p>2 特記事項</p> <p>選定結果については、保土ヶ谷区長に報告後、指定候補者に通知し、保土ヶ谷区ホームページで公表を行う。</p>